

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2019年5月号」

光の子として歩みなさい。

エフェソの信徒への手紙 5章8節

風薫る爽やかな季節を迎えました。新学期が始まって3週間がたち、子どもたちも新しいクラスに慣れてきたようです。1年生も元気に登校しています。明日は、1年生を歓迎するウエルカムアセンブリとウエルカムピクニックが予定されており1年生にとっては、初めての全校行事です。楽しい一日となることを願っています。翌土曜日からは10連休が始まります。それぞれのご家庭で計画を立てておられることと思いますが、だらだらと過ごしてしまうと連休明けが大変です。特に1年生は入学後間もない時期での長期の休みとなり、せっかく小学校生活に慣れてきたことが白紙に戻ってしまわないか少し心配しています。どうか、生活のリズムが崩れてしまわないように十分気をつけて、メリハリのついた生活をするように心がけてください。

ところで、東京大学入学式での上野千鶴子氏の祝辞が話題になりました。新聞やテレビなどで報道され、大学ホームページにも掲載されていますので、ご存じの方も多いかと思います。「ご入学おめでとうございます。あなたたちは激しい競争を勝ち抜いてこの場に来ることができました。」と始まるこの祝辞には、様々な意見や感想が寄せられマスコミを賑わせました。後半部分で上野氏は次のように語っておられます。

「あなたたちはがんばれば報われる、とあってここまで来たはずですが、冒頭で不正入試に触れたとおり、がんばってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています。そして**がんばったら報われるとあなたがたが思えるそのことそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったことを忘れないようにしてください。**あなたたちが今日『がんばったら報われる』と思えるのは、これまであなたたちの周囲が、あなたたちを励まし、背を押し、手を持ってひきあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。世の中には、がんばっても報われないひと、がんばろうにもがんばれないひと、がんばりすぎて心と体をこわしたひと…たちがいます。がんばる前から『しょせんおまえなんか』『どうせわたしなんて』とがんばる意欲をくじかれるひとたちもいます。

あなたたちのがんばりを、どうか自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と能力とを、恵まれないひとびとを貶めるためにではなく、そういうひとびとを助けるために使ってください。そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください。(大学ホームページより抜粋 太字化は宮崎)

この祝辞が話題になり始めて暫くたった頃、偶然にも6年生の一人が自主学習で祝辞を読んだ感想を書いてきました。一部ですがご紹介します。

祝辞の中に「自分のがんばりを勝ち抜くためだけに～助けるために使ってください。」とあった。僕は今、三回の食事に困ることなく学校に行き、勉強をし、いろいろなところで旅をして、本当に幸せに暮らすことができている。感謝して、これからも頑張ろうと思っているが、夢がかなったときに、決して自分一人の頑張りだと自己満足するのはやめようと思う。夢がかなったその時

は、人を助けるために、その幸福と、エネルギーを使いたいと思った。五十年後の日本は想像もつかないが、安全で、差別のない社会になればいいと思っている。

日頃子どもたちに、恵まれていることに感謝し、一生懸命勉強して自分のためだけでなく、勉強することができない子や苦しむ人が少しでもいなくなる社会をつくるのに役立ててほしいと話しているので、上野氏のこの言葉には強い共感を覚え、またこのような感想に接することができたことを嬉しく思いました。与えられた能力はそれぞれに異なりますが、本校の子どもたちは本当に恵まれた環境のなかで学ぶことができていると思います。そのことを忘れずに、感謝の気持ちを持ち、そして自分のことばかりでなくほかの人のことも心に留め置いて努力を重ねていってほしいと願っています。

(文責 宮崎 隆一)